

参議院経済産業委員会（クールジャパン機構のあり方質疑③）2022年6月14日

○安達澄君 無所属の安達澄です。どうぞよろしくお願いいたします。質問時間に関していろいろと御配慮いただき、ありがとうございます。

まず最初に、法案関連の質問を二問いたします。

第八回安全分科会では、今回のようなミスを防ぐ観点からデジタル化を推奨する意見が多くありました。今後、産業保安グループのみならず経産省としてどのように業務改善に取り組んでいくのか、まずそこを教えてください。

○政府参考人（飯田祐二君） お答え申し上げます。

経済産業省といたしましては、今回、法律改正の検討をする審議会の重要資料におきまして誤りが生じたという事態を、担当部局のみならず組織全体として重く受け止め、今後こうしたことが二度と起きることがないように、省を挙げて再発防止策に取り組んでまいりたいと考えてございます。

御指摘いただきましたとおり、業務のデジタル化は業務の効率化だけでなく手作業による誤りを防止することにもつながるため、令和二年三月に決定いたしました経済産業省デジタル・ガバメント中長期計画も踏まえまして、省全体でしっかり推進してまいりたいと考えてございます。

例えば、先ほど申し上げましたけれども、経済産業省が実施する補助事業は今年度から全て電子申請できるようにいたして、原則全て電子申請できるようにいたしておりますし、また、産業保安分野におきましても、保安ネットというシステムを令和二年一月から段階的に運用を開始してございます。

本計画はこの夏に改定を行うこととされておまして、引き続き内容の充実を、東先生に御指摘いただきましたとおり、効率的に行うことを進めて、着実にデジタル化を推進して、手作業を減らしてミスが減らしていくように、組織を挙げてしっかり努めてまいりたいと思っております。

○安達澄君 ありがとうございます。

次に、産業界、事業者側が作業負荷、ミスを軽減できるように、受け手側である役所も含めたトータルでのデジタル環境整備、対策が必要かと思っておりますけれども、その点についてどのようにお考えか、教えていただけますか。

○政府参考人（太田雄彦君） お答えを申し上げます。

御指摘のとおり、事業者における作業負荷の軽減やミスを減らす観点から、デジタル環境を整備することは重要と認識してございます。

この点、産業保安分野では事業者に対しては様々な申請、届出等を義務付けて

おりますけれども、官民双方における抜本的な業務効率化のため、経済産業省として、二〇一八年に保安ネットと呼ばれる産業保安法令等に関する行政手続の電子化のためのシステムの開発に着手しまして、二〇二〇年一月から段階的に運用を開始してございます。この結果、現在、電気、LPガス、都市ガス等の産業保安法令及び製品安全法令に基づく申請のうち、電子申請を行うことができる申請手続のオンライン申請率は八〇%を超えてございます。

引き続き、申請件数の多い手続から優先的に保安ネットへの対象手続の拡大を進めまして、必要な法令手続を事業者に対して通知するアラート機能を追加するなど、システムの利便性の向上等により事業者における利用率の一層の拡大を図ってまいりたいと考えてございます。

○安達澄君 私もメーカーで工場勤務しているときに、やっぱりメンテナンスの人とかっていうのはもうこんな分厚いファイルをやっぱり職場に保管したり申請したりという記憶はあるんですけど、かなり今その辺は改善されているというふうにも認識しています。今後、十分に業務改善、そしてデジタルの環境整備を進めていただきたいというふうに思います。

続いて、官民ファンドについて質問をいたします。

経済産業省が進めるクールジャパン機構、その中でも百億円以上の出資を決定している三大プロジェクトの中の一つ、ラフ・アンド・ピース・マザーについてです。本件についてはこの通常国会でも三月に取り上げましたけれども、そのときから少し動きがありましたので改めて確認をさせていただきます。

このラフ・アンド・ピース・マザーは、吉本興業とNTTとの協業です。百億円の出資を決定した際の経産省の資料によると、この事業の政策的意義や事業の概要は大きく二つあります。一つは、アジアにおいて良質な教育のオリジナルコンテンツの配信を通じて日本の文化を発信し、次世代の日本ファンの獲得を目指すというもの。そして二つ目は、沖縄に体験パークを造り、地元の観光業の活性化を図るというものです。

まず一つ目、良質な教育のオリジナルコンテンツの配信についてですけれども、三月八日の経済産業委員会で、このラフ・アンド・ピース・マザーが配信している教育コンテンツでとても良質とは思えない事例の一つとしてスナック来夢来人の話を紹介しました。お手元の資料一です。これ、子供向けですからね。場面設定がスナックで、そこに小学生がランドセルをしょってお店に入ってきて、そこにいる吉本興業の女性芸人のゆりやんママといろんなゲームを楽しむという教育コンテンツです。

私が前回指摘したこの資料一のお札キャッチゲームは、その後削除されてきました。私、決して、これを削除してくださいとかそんな次元の低い話をしてい

るつもりではなかったんですけど、削除されていまして。そうすると深掘りしたくなります。同じスナック来夢来人でも、そのまま残っているコンテンツもあります。これ、有料コンテンツですけど。どんなコンテンツかというのが資料の二になります。

この場で説明するのも本当恥ずかしいんですけど、あえて簡単に補足します。①、ねじねじ輪ゴムゲームというのは、テーブルの上でゆりやんママがぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅとゴムを丸めて三秒間、ぱっと放して輪ゴムがきれいに丸になれば成功、ぐじゅぐじゅのままだと失敗。どうなるかという、前回同様に水鉄砲で小学生の顔にばきゅんという罰ゲームです。

そして、二番目、これも有料コンテンツですけど、ティッシュ綱引きゲーム。これもティッシュをひもみたいにこうして二人、もう、もうやめておきます、ここで。

三月十六日の委員会質疑の中で、萩生田大臣や細田副大臣はコンテンツの中身についてこうおっしゃっていました。表現の自由とのバランスを確保しつつ、社会通念上許容される範囲内で実施されることが重要とおっしゃっていました。となると、お札キャッチゲームは社会通念上許容できたけども、ほかは許容、あつ、できなかったけども、ほかは許容できるという判断なのか。削除されたものどうして残っているもの、この違いが私にはよく理解できません。

そこでお聞きします。

表現の自由とのバランスや社会通念上の許容範囲を踏まえた結果、経済産業省やクールジャパン機構のこの線引きというのは一体どこにあると理解すればいいのでしょうか。

○政府参考人（畠山陽二郎君） お答え申し上げます。

経済産業省といたしましては、コンテンツ制作等の表現に関わる事業は、表現の自由とのバランスを確保しつつ、社会通念上許容される範囲で実施されることが重要であると考えております。今御指摘のとおりでございます。

こうした観点から、本年三月、クールジャパン機構に対して、本件も含めて、御指摘いただいたコンテンツ内容を含めて、提供するコンテンツの内容が適切に作成されていることを改めて確認し、必要な対応を速やかに実施するよう指示したところで、必要な対応を実施するよう指示したところでございます。

その上で、御指摘の動画コンテンツにつきましては、クールジャパン機構とラフ・アンド・ピース・マザーでの協議の結果、彼らは、事業者はコンテンツ制作に関するガイドラインというものを作っておりますけれども、そうしたことも基準にしながら、結果として取下げという判断に至ったものと承知をしております。

経済産業省といたしましては、クールジャパン機構及び投資先の事業において、コンテンツ内容に関する確認体制がきちっと構築されていること、それからその体制に従って確認が実施されていること、この二点をきちっとするように徹底をしております、その報告も受けております。その上で、個々、一つ一つ個々の判断に関する是非や詳細については、原則として機構及び事業者にお任せをしているというところでございます。

以上でございます。

○安達澄君 ううん、そうですか。

このクールジャパン機構法の成立、これをめぐって、二〇一三年の国会審議ですけれども、当時の茂木経産大臣は、官主導ではなくて民間主導を基本と答弁をされています。それで結構です。ただ、民間主導が基本だとしても、今の状態は丸投げ、投げっ放しだというふうに思うんですね。クールジャパン機構法の第二十七条には、国は事業者に対して必要な助言を行う努力義務があると規定されています。その努力をちゃんとしていないからこんなことになるんだと思います。

私、傷口が広がらないうちに速やかにこのラフ・アンド・ピース・マザーについて国は撤収すべきだと考えています。少なくとも、このクールジャパン機構の事業内容全般を経産省はもっとちゃんと見る必要があると思います。自慢の三大プロジェクトの一つがこのような状況ですから、ほかにもある五十くらいの事業が本当に心配です。

繰り返しになりますけれども、私はこのスナック来夢来人のコンテンツとかラフ・アンド・ピース・マザーだけを批判しているわけではありません。そんな次元の低い話をしているわけではありません。前回も申したとおり、グリーン、デジタル、エネルギー、半導体、蓄電池と、もう課題山積みの、しかも喫緊の課題が山ほど経産省にはあります。にもかかわらず、過去の答弁によると、クールジャパン機構やクールジャパン政策全般の仕事を担うクールジャパン政策課の職員数は課長以下三十六名、経済安全保障の要、半導体政策を取り仕切る情報産業課はそれよりも少ない三十名、萩生田大臣は半導体の次は蓄電池だとおっしゃっていましたが、その蓄電池産業政策を所管する課や室の職員数は十三名です。明らかにおかしいと思います。

国のお金、そして貴重な経産省の人材、時間を掛けてこのラフ・アンド・ピース・マザーを始めとするクールジャパン機構に今のような形で国が関わり続ける意義が本当にあるのか、私はそこを問うています。

次に、二つ目の、沖縄に造る計画の体験パークについてです。

三月八日のこの経産委員会で、政府参考人からは、オンラインコンテンツと連動したリアルな体験の場として沖縄にアトラクション施設を造る、しかし、コロ

ナ禍の影響もあって検討は今中断とのことでした。が、同時に、リアル体験の在り方について関係事業者間で検討したり、具体的には、今年三月から期間限定で大阪市内において体験型の学習イベントを開催するとの答弁でした。

そこで、私、このイベントに四月下旬に実際に行ってきました。その内容がお手元の資料三です。

左がこれチラシですけども、右上がこれ会場の様子ですね。私、四月下旬の日曜日に行きましたけど、見てのとおり、ちょっとがらんとしています。これ、アトラクションは全部で十ありました。下にある写真がその中の二つです。左の写真は、これ、男性の顔、女性の顔をかしやつ、かしやつとカメラに撮ると、自分の将来の子供がこんな顔になるよというのが出てくるのがこの左。そして、右は、これ、右に立っているのはこれは私なんですけど、私の写真がかしやつと撮られて、そうするとこういうふうにあート風になって出てきます。

ただ、こういうコンテンツ、アトラクションは、今もう携帯電話で無料アプリでできるんですよ。何でこれがこうやって、これ、千五百円、一人、大人は取られたんですけど、あるのかなというのが不思議ですし、同じ会場、もう一つのアトラクションには、ミニドームがあって、そこには何か水族館みたいな、そういう映像がわあっと天井を流れるんですけど、沖縄には御存じのとおり世界トップクラスの美ら海水族館があります。インバウンドはどっちに引かれるかといったら、もう一目瞭然だと思います。肝であるはずのオンラインコンテンツとの連動も、このイベントでは見受けられませんでした。

そこでお聞きします。

前回の答弁踏まえると、この大阪で開催された体験型学習イベント、こういったものを沖縄に造るという認識でよろしいでしょうか。

○政府参考人（畠山陽二郎君） 今御指摘ありました私が三月に答弁申し上げた大阪の体験型学習イベントというのは、御指摘のとおり、三月から五月の期間限定で大阪で開催されていた「やってみた展」のことであるということでございます。

こうした内容のものを沖縄に造るのかという御指摘でございますけれども、この前回も御質問ありました沖縄での常設の体験型施設の建設計画、これにつきましては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を踏まえて二年前から検討が中断されていたところでございます。その後、先月のラフ・アンド・ピース・マザー社の事業計画の見直しの際に計画の中止が決定をされております。したがって、沖縄でそうした体験型施設の建設をするということは予定にありません。

以上でございます。

○安達澄君 中止ですね、承知いたしました。

じゃ、もう一つ。もう一つというか、この沖縄のアトラクション施設が中止になったことはもう非常にいいことだと思います。

クールジャパン機構法には、第一条に、海外需要の開拓、これが目的と規定されているんですね。このラフ・アンド・ピース・マザーのその肝となる海外展開について、政府参考人も、まさに畠山さんですけども、昨年も今年も準備中というふうにお答えになっていました、海外展開はですね。そして、萩生田大臣の三月の答弁では、国内サービスが順調に立ち上がって、その二年後から経験やノウハウを生かして海外向けサービスを開始するというふうに答弁されていました。

ところが、このラフ・アンド・ピース・マザーの社長、これ吉本興業から行っている方ですけど、昨年五月のインタビューで、これユーチューブにも今アップされていますけど、このように述べています。基本的には、文化も言葉も違う、日本のものをそのままするって持っていくことはない、変更して持っていく。社長自ら、国内の経験やノウハウが必ずしも役に立つわけではない旨、まあ大臣の答弁とはちょっと違う発言をされています。

どうもこの事業に軸がないなと思います。一体何をしようとしているのか、どこに向かっているのか、深掘りするほど分からなくなります。

クールジャパン機構には、これまで約一千億円、そして、今後また二〇二八年度までに更に一千億以上の国費が投入される計画になっていると思います。ラフ・アンド・ピース・マザーには、出資決定済み百億のうち、百億のうち既に三十一億円を出資してしまっているの、残り六十九億円。ただ、とても今の状況では出すべきではないと思います。これから来年度予算の策定作業も始まります。

最後に、萩生田大臣にお聞きします。

大臣は、前回、今後の動向を注視とおっしゃっていましたがけれども、今の足下の状況でこのラフ・アンド・ピース・マザーに残り六十九億円を出資することはないという考え方、これは共有できますよね。ということと、このラフ・アンド・ピース・マザーを始めとするクールジャパン機構に今のような形で国が関わり続ける意義が本当にあるのか。これを見直す判断ができるのは、選挙で責任が取れる政治家です。大臣のお考えをお聞かせください。

○国務大臣（萩生田光一君） クールジャパン機構による事業は、コロナ禍においても、我が国の生活文化の特色を生かした魅力ある商品や役務の海外における需要を開拓するとともに、海外における我が国の魅力を高め、更なる需要を開拓し、日本経済に新たな付加価値をもたらし、我が国の経済成長につなげる政策

的意義があるものと承知をしております。

一方で、こうした政策的意義の実現については個別によく見ていく必要があります。まして、先生から累次にわたって御指摘いただいておりますラフ・アンド・ピース・マザー事業については、本年三月、経済産業省からクールジャパン機構に対して、海外需要開拓という政策目的の実現とコンテンツ制作などの表現に関わる事業の実施方針の視点から各投資案件の適切性を点検するよう指示を行ったところです。仮に海外需要の開拓の見込みがない場合には、クールジャパン機構による支援継続は困難であると考えております。

加えて、委員御指摘のクールジャパン機構の在り方については、そのパフォーマンスの評価をしっかりと行った上で、見直しが必要なものについては適切に見直してまいりたいと思います。

引き続き、限られたリソースを有効活用しながら、経済産業省が抱える様々な政策課題にしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

○安達澄君 ありがとうございます。

職員の方には、これはもう見直しの決断はできないと思います。もうまさに政治家の判断だと思いますので、そこを強く萩生田大臣には期待して、私の質問を終わりにしたいと思います。

ありがとうございました。